

1. 本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

- ・平均正答率は国語・数学・英語ともに全国平均と比較して高い結果となっています。また、無解答率の割合も3教科ともに低く、最後まであきらめずに課題に取り組んでいることがわかりました。
- ・国語においては、ほぼすべての問題で全国平均を上回りました。特に、「読むこと」の領域について良好な結果となりました。これは、授業の中で根拠や観点を明確にして、自分の考えを相手に伝える活動を継続して行ってきた結果であると考えられます。
- ・数学においても概ね良好な結果となりました。特に「数と式」「関数」の領域について良好な結果でした。また、「データの活用」については、四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題で全国平均を大幅に上回りました。
- ・英語においても、ほぼすべての問題で全国平均を上回りました。特に「書くこと」の領域について、全国平均を大きく上回りました。これは、「話すこと（発表）」に取り組む際に、その準備で書く活動を多く取り入れるとともに、4技能5領域をバランスよく取り入れた授業づくりに取り組んできた結果であると考えられます。

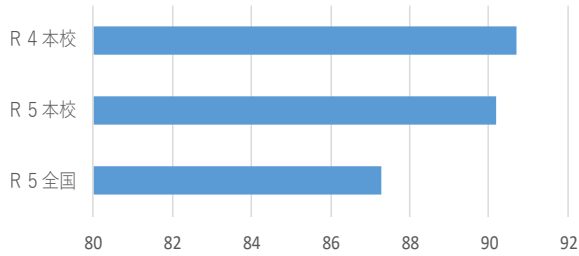
2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題の正答率が全国平均を大きく上回っていました。これは、古文の授業中に繰り返し音読に取り組んだ成果と考えられます。 ・インタビューのまとめとして、どのようなことを述べるのか、自分の考えを書く問題の正答率が全国平均を上回っていました。これは、自分の意見を書いたり想像力を働かせて議論したりする授業に取り組んできた成果と考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈に即して漢字を正しく書くことに課題が見られました。「推量」から「推し量る」のように連想して、語句を広げていくことを積み重ねる必要があると考えられます。 ・記述式の問題に課題が見られました。とりわけ、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして記述する問題に課題が見られました。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・四分位範囲の意味を理解しているかを問う問題で、正答率が全国平均を大きく上回りました。これは、既習事項を繰り返し学習するとともに、なぜ、この学習が必要なのかを説明することを大切にできた成果と考えています。 ・与えられた表やグラフから必要な情報を読み取ったり、グラフを用いて事象を数学的に解釈し、説明したりする問題で全国平均を上回りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反比例や累積度数の意味の理解を問う問題の正答率が全国平均をやや下回りました。既習事項の定着について、単元によってばらつきがあるため、生徒一人ひとりの実態に応じた授業作りが必要と考えられます。 ・複数のデータの傾向を比較、検証し、数学的に説明することに課題が見られました。データを読み取って、考えを記述したり議論したりするような授業作りが必要と考えられます。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を正確に聞き取る問題について、すべての問題で全国平均を上回りました。 ・条件を満たした英文を書く問題について、全国平均を上回りました。 ・事実と考えを区別して読むことができるかどうかを問う問題で、全国平均を上回りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題について、短い英文の概要を捉えることができるかどうかを問う問題で課題が見られました。 ・日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやりとりの場面において活用できるかを問う問題で、全国平均を下回りました。4技能5領域を効果的に組み合わせた授業づくりに継続して取り組むとともに、英語を使用する場面をより丁寧に設定していく必要があると考えられます。

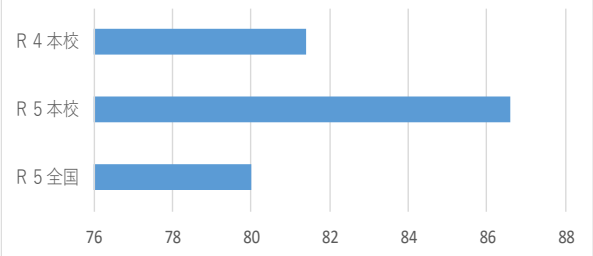
3. 生徒質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

<取組みの成果があらわれている、または特徴的であると思われる事項について>

①先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。（肯定的割合）

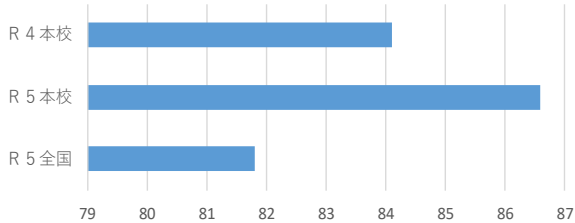


②自分には、よいところがあると思いますか。（肯定的割合）



「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問に対して86%以上の生徒が、また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に対しては、90%以上の生徒が、それぞれ肯定的な回答をしています。これは、1年時から、校外学習や平和学習など、自分で調べてプレゼンテーションの資料にまとめたり、班やクラス、学年で発表したりする取組みを継続的に実施し、それに対して、教員が丁寧に評価を実施してきた成果と考えられます。また、委員会によるキャンペーンなどを積極的に行い、たくさんの方の前で自分たちの考えを発表したり、学年のいいところを伝えたりするなど、子どもたち主体の取組みを行ってきました。様々な場面で多くの生徒が活躍できるように、教員がその取組みをサポートすることを徹底してきたことが、自己肯定感・自己有用感の高揚につながっていると考えています。

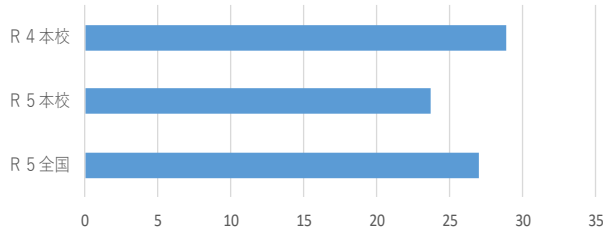
③学校に行くのは楽しいと思いますか。（肯定的割合）



これらの取組みが「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の質問に対して、86%の生徒が肯定的に回答する結果につながっていると考えられます。本校としては、今回の結果を第三学年だけのものにせず、学校全体のものとなるよう、取組みを共有していきたいと考えています。

<課題と思われる事項と今後の取組みについて>

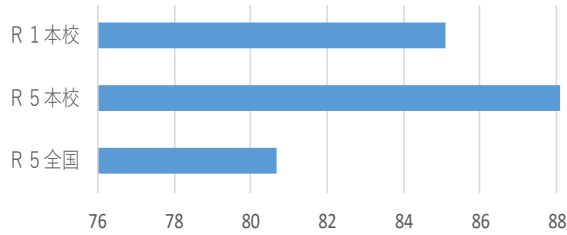
④学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（30分以上の割合）



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（30分以上の割合）は、全国平均より下回っています。

読書は、子どもたちにとって、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことができないものです。本校としましては、現在、取り組んでいる「朝読」を継続するとともに、学校図書館司書と連携して、子どもたちの読書時間が増えるよう取組みをすすめてまいります。

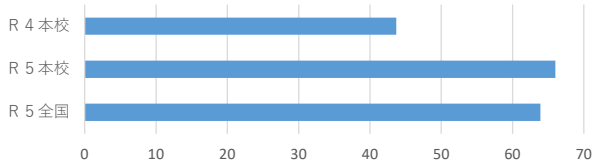
⑤1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか（肯定的割合）



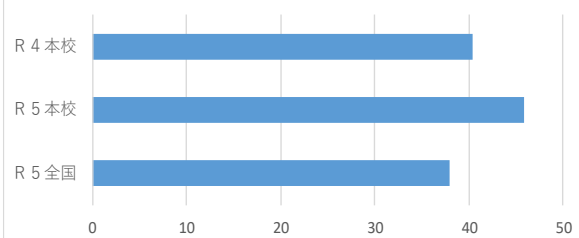
英語について、授業中に生徒同士で英語で問答しあったり、意見を述べ合ったりする活動をしっかりと実施できていることが分かりました。しかしながら、話すこと調査の結果は、全国平均を上回ったものの、正答率が約14%、無解答率が約20%という結果でした。

この結果を踏まえ、今以上に英語を活用する場面を丁寧に設定した授業づくりを行うとともに、子どもたちに必要感を感じさせることで、英語力の向上を図りたいと考えています。とりわけ、話すこと（発表）、話すこと（やりとり）について、ALTを効果的に活用し、より使える英語の力を身に付けさせたいと考えています。

⑥地域や社会をよくするために
(R4)何をすべきかを考えることがありますか
(R5)何かしてみたいと思いますか
(肯定的割合)



⑦今住んでいる地域の行事に参加していますか
(肯定的割合)



「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の項目に対して、60%以上の生徒が肯定的に回答しています。これは、地域学習などを通して、大阪狭山市のことを考える取組みを行ってきた成果と考えています。一方で、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目に対する肯定的な回答が50%に満たない結果となりました。

本校としては、子どもたちが持つ「自分たちが住んでいる地域への思い」を実現できるように、地域と連携した取組みをすすめていきたいと考えています。

4. 保護者・生徒のみなさんへ

生徒のみなさんへ

全国学力・学習状況調査の結果は、国語・数学・英語とも大変良好な結果でした。普段の授業の中で教科書や自分が書いた文章を声に出して読み、自分の思いや考えをまとめ、それを班やグループ、クラス全体に伝えることがしっかりできています。その日々の取組みが今回の結果に結びついています。

また、約8割の人が平日に学校の授業以外で、1日あたり1時間以上勉強をしていることがわかりました。自ら学習に向かう姿勢は、今後みなさんが社会を生き抜いていくために大変重要な力になります。是非、継続して家庭学習を続け、自らの学びを調整する力を高めていってください。

保護者のみなさんへ

狭山中学校の生徒が学習に取り組む姿勢や態度については、多くの内容で成果がみられました。その一方で、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した生徒が約7割いるのに対して「今、住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒は半数に満たないということがわかりました。

今後、生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習に集中することができる環境づくりを継続して行っていくとともに、地域や社会と連携して子どもたちの思いが実現できるような取組みをすすめてまいります。

子どもたちが様々な取組みをすすめていくためには、心身の健康を維持することが大切です。そのためには、規則正しい生活習慣と家庭学習の習慣が重要になります。家庭と学校が連携していくことでより効果的な取組みが実現すると考えておりますので、どうぞご協力をお願いします。